

公益社団法人 日本船舶海洋工学会

平成29年度（第122期）事業報告

（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

日本船舶海洋工学会は、船舶及び海洋工学に関する学術技芸を考究し、船舶の性能及び安全性向上、並びに、海洋の開発利用及び環境保全を図ることにより、我が国の発展に寄与すると共に、我が国の国民生活の向上を図ることを目的としている。この目的を達成するため、会員を含む広く一般国民を対象とした公益目的事業として、調査研究事業ならびに啓発広報事業を行っている。平成29年度は学会創立120周年にあたり種々の記念事業を行ったほか、第1回のおね遺産を認定した。また国の補助金を得た研究活動を行ない、海外共同研究促進事業、海洋教育フォーラム活動を拡大した。実施された事業について、事業区分ごと以下に示す。

I 調査研究事業

【1】学術講演会

(1) 春季講演会

平成29年5月23、24日、東京大学生産技術研究所（東京都目黒区）において、平成29年春季講演会を開催した。120周年記念式典の翌日からの開催ということもあり、約400名の参加があり、一般講演123件、OS5セッション51件、合計174件の講演が行われた。若手優秀講演には35件の応募があり、優秀賞6件が選定された。企業展示は9社の参加があり、うち2社はランチョンセミナーも実施した。懇親会は120周年祝賀の意味もあって、事前登録者の参加費を割り引いたため、有料参加164名のうち約100名がこの事前登録該当者であった。招待者等約35名も加わったため、盛大であった。

(2) 秋季講演会

平成29年11月27、28日、広島市の広島国際会議場において、平成29年秋季講演会を開催した。約350名の参加があり、一般講演139件、OS5セッション22件、合計161件の講演があった。特別講演は、マツダ(株)技術研究所技監 農沢隆秀氏による「精神的価値が成長する感性イノベーションとモノづくり～感性豊かな社会を目指して～」が行われた。ポスターセッションは、若手枠を外して募集したが、結果として学生6名による参加となり、最優秀賞1件、優秀賞1件の表彰を行った。企業展示は6社の参加があり、うち3社はランチョンセミナーも実施した。懇親会には192名が参加した。これには事前登録者の94.5%が参加し、参加者数把握をかなり正確に行うことができた。開催期間中は、全ての講演論文を無料WiFiにて閲覧・ダウンロードできるサービスを提供し、論文内容の理解と質疑応答の活性化を図った。また、当日配布のプログラムには、各セッションのキーワードとともに司会者名を記した。

(3) 講演会企画委員会

委員数：山崎哲生委員長ほか6名

各支部講演会実行委員会および電子投稿WGとともに、春季・秋季学術講演会の企画・運営を行った。また、講演会の活性化策について検討し、前述のように、実行可能なものから順次実施した。

【2】論文集発行

(1) 論文審査委員会

委員数：日夏宗彦委員長ほか21名

主として国内からの投稿論文に対して論文審査を行い、有益な論文を集めて日本船舶海洋工学会論文集第25号、第26号を発行した。また平成30年3月5日開催の論文審査委員会において日本船舶海洋工学会賞（論文賞3件）および奨励賞2件を選考した。

(2) 日本船舶海洋工学会論文集刊行

表1-1のとおり日本船舶海洋工学会論文集第25号を平成29年6月に、第26号を平成29年12月に刊行した。

表1-1 日本船舶海洋工学会論文集刊行

	論文数	頁数	発行部数
論文集第25号 (平成29年6月)	20	203	900
論文集第26号 (平成29年12月)	25	276	900
計	45	479	1,800

【3】英文論文集 (Journal of Marine Science and Technology) の発行 (科研費補助事業)

(1) JMST 編集委員会

委員数：高木健委員長ほか44名

世界各国からの学術投稿論文に対して論文審査を行ない、有益な論文を59編集めてJMST Vol.22 No.2～Vol.23 No.1を編集した。日本学術振興会の科学研究費補助金を受けて、海外より1名を招へいしAssociate Editorの会議（30.3.16開催）を行い、また基幹論文4編のオープンアクセス化を図り、優秀論文賞をJMST論文1篇に対して授与するなど、国際情報発信の強化を行った。

(2) JMST 刊行

JMST Vol.22 No.2～Vol.23 No.1の4冊を、表1-2のとおり刊行した。

表1-2 英文論文集(JMST)刊行

	論文数	頁数	発行部数
Vol.22 No.2 (平成29年6月)	15	200	500
Vol.22 No.3 (平成29年9月)	16	198	500
Vol.22 No.4 (平成29年12月)	12	195	450
Vol.23 No.1 (平成30年3月)	16	200	450
計	59	793	1,900

【4】調査・研究活動

1. 研究企画委員会

委員数：菅勇人委員長ほか12名

学会の研究活動全般を統括し、研究活性化戦略を企画・推進することを目的として、研究企画委員会を以下のとおり開催し、下記事項を実施した。

回	期日	場所	出席者数	議事件数
第37回	29.7.3	日本海事協会	11名	7件
第38回	29.11.08	ホテルニューヒロデン	9名	4件
第39回	30.2.13	日本海事協会	9名	6件

実施事項：

- ・分野研究活動の報告及び検討
- ・新規研究委員会の設置に関する審議（4件）
- ・新規研究会設置に関する審議（1件）
- ・分野研究企画部会、研究会等の予算に関する審議

2. 分野研究企画部会

性能・運動分野

委員数：岩下英嗣委員長ほか7名

船舶及び海洋構造物等の性能・運動分野についての研究動向や産業界のニーズを踏まえ、わが国として取り組むべき重点課題の設定と研究活動方針の策定、実施体制の検討を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	29.6.19-20	大阪大学中之島センター	10名	15件
第2回	29.10.19-20	広島大学ライブラリーホール	8名	6件
第3回	30.2.27-28	三井造船沼島研究所	8名	8件

実施事項：

- ・第7～9回の推進・運動性能研究会の企画、実施
- ・重要研究課題の議論およびシンポジウム開催テーマの議論
- ・ITTC/JTTC活動情報の共有化

構造・強度、材料・溶接分野

委員数：北村充委員長ほか8名

構造強度・材料溶接の研究や共通構造規則に関し、船体構造研究会および材料・溶接研究会の活動状況などの情報交換を実施した。

回	期日	場所	出席者
第1回	29.11.13	ネットカンファレンス大阪	8名

実施事項

- ・各研究会における活動の情報交換
- ・構造と材料を横断する研究テーマの探索
- ・夏の学校（構造強度・材料溶接）の実施報告と次回開催案
- ・第1回分野研究交流会の開催（29.11.13、ネットカンファレンス大阪、出席者33名、研究発表4件）

工作分野

委員数：後藤浩二委員長ほか10名

船殻工作分野に関わる諸問題の解決及び情報交換を目的とし、建造革新研究会の活動進捗確認及び活動方針検討を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	29.4.18	九大箱崎キャンパス	16名	5件
第2回	29.10.30	九大箱崎キャンパス	9名	5件
第3回	29.12.22	九大東京オフィス	9名	5件

設計・艦装分野

委員数：篠田岳思委員長ほか6名

造船設計部会、船体艦装工作部会、機関艦装部会、電気艦装部会の4部会を連携させ、横断的な共同シンポジウムを開催した。

実施事項：

第13回造船設計・生産技術研究会シンポジウム

「将来規則動向と艦装設計における対応技術」をテーマにした5件の講演と各部会の活動報告およびプロジェクト報告。

期日：平成29年9月28日

場所：KKRホテル広島

海洋工学・海洋環境分野

委員数：今井康貴会長ほか11名

海洋工学および海洋環境分野の研究動向を調査・整理するとともに、今後の研究を企画・推進・支援するため、海洋工学・海洋環境分野研究企画部会を下記の通り開催した。

回	期日	場所	出席者数
第37回	29.8.28	東大柏キャンパス	8名
第38回	29.12.15	府大 I-site なんば	8名
第39回	30.3.26	博多 リアリティス 駅東ビル	9名

実施事項：

- ・海洋工学・海洋環境合同研究会の企画と開催
- ・関連研究委員会（S-15, P-48, P-53）の活動支援、企画立案

・東大柏キャンパス水槽見学会の実施（29.8.28）

・日立造船にて洋上風力模型実験装置製作現場見学会（29.12.15）

情報技術分野

委員数：濱田邦裕委員長ほか11名

造船および海事産業の情報技術に関する研究・開発動向を調査するとともに、今後の研究・開発の推進を目的として以下の通り実施した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	29.06.02	SHI-ME	8名	4件
第2回	29.09.20	東京大学（柏の葉）	10名	4件
第3回	29.12.05	東京大学（本郷）	10名	6件
第4回	30.01.16	常石造船	11名	3件

実施事項：

- ・研究企画委員会の審議事項の報告と連携
- ・プロジェクト研究会（P50）活動進捗に関する審議
- ・プロジェクト研究会（P55）活動進捗およびi-Shipping研究開発に関する審議

3. プロジェクト研究委員会

今期は8件のプロジェクト研究委員会を実施した。このうち今期に活動を終了した研究委員会は3件（P-48, P-49, P-51）、新たに活動を開始した研究委員会は3件（P-53, P-54, P-55）である。今期の委員会活動は以下のとおりである。

P-48 海洋における生態系サービスの評価に関する研究委員会

委員数：大塚耕司委員長ほか9名

活動内容：一橋大学の環境経済学の研究グループとの合同勉強会ならびに長野大学の環境経済学者を招いた勉強会を行い、環境経済学で扱われている「循環度」の海洋生態系への応用、農業経済学で主に用いられている「リファレンスレベル」「シビルミニマム」の沿岸域環境管理への応用について検討した。また今後は部会として活動を継続しつつ「包括的富指標」など他の評価指標についても引き続き情報収集することを確認した。

・研究委員会開催

開催日	場所	出席者数	議題
29.6.17	一橋大学西キャンパス	7名	4件
29.9.11	東京大学本郷キャンパス	7名	3件
30.1.9	東京大学本郷キャンパス	5名	2件
30.3.29	西鳥取漁港実験施設	7名	2件

P-49 「船舶塗装防食設計指針の改定」研究委員会

委員数：荒井誠委員長ほか17名

平成12年に改訂された標記指針を、有機溶剤塗料、水性塗料などの新しい塗料の解説、昨今の各造船所における採用塗料の実例、PSPCを含む最新規則の解説などを追加して全面的に改訂することを目的に活動を行い、平成30年3月27日に最終報告書を完成させ、各委員に配付した。

回	期日	場所	出席者数
第2回	29.2.10	佐世保重工業	6名
第3回	29.8.31	福岡センタービル	14名
第4回	29.10.27	佐世保重工業	6名

P-50 造船業におけるIoT技術の利用検討に関する研究委員会

委員数：濱田邦裕委員長ほか44名

IoT活用の先進的な取組についての情報収集ならびに、新たな技術動向について調査し、今後の船舶建造におけるIoTデバイス活用の可能性及び課題について研究することを目的に、以下の通り活動した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第4回	29.06.02	SHI-ME	29名	1件
第5回	29.09.20	東京大学（柏の葉）	31名	1件
第6回	30.01.16	常石造船	31名	1件

実施事項：

- ・IoTヘルメットおよびモニタリングデバイスの実証試験
- ・実証試験結果報告およびデータ解析結果報告
- ・来年度活動方針確認

P-51 内航海運のための省エネ母船型の研究開発委員会

委員数：日野孝則委員長ほか13名

本委員会は、日本船舶海洋工学会と造船三社との共同研究体による、内航船を対象とした省エネ船型群を開発する資源エネルギー庁の補助事業のステアリング委員会である。平成28年度に資源エネルギー庁のプロジェクトは終了したが、学会講演会でオーガナイズドセッションを企画して、成果を公表するとともに、最終報告書をまとめて平成29年6月に委員会活動を終了した。

P-52 作業安全に配慮した作業標準の制定方法に関する研究委員会

委員数：篠田岳思委員長ほか18名

研究方針の策定と3つのWGの活動報告がなされた。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第3回	29.6.29-30	JMU 横浜	18名	3件
第4回	29.11.20-21	函館どつく	17名	3件
第5回	29.3.5-6	三井玉野	17名	3件

P-53 波力発電における水槽試験での模型縮尺影響研究委員会

委員数：村井基彦委員長ほか8名

本委員会として対象とする波力発電機構および実験の対象・手法についての絞り込みを行い、議論に基づき小型模型による水槽実験を実施した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	29.11.28	広島国際会議場	7名	3件
第2回	30.3.27	リファレンス博多駅東	6名	2件

P-54 「救命設備計画指針の改訂」研究委員会

委員数：田中進部会長ほか24名

平成4年に改訂された標記指針を、規則の改正や救命技術の進歩に伴い、全面的に見直すことを目的に活動を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	29.8.29	JMU 本社	7名	2件
第2回	30.2.19	JMU 本社	7名	4件

実施事項：

- ・基本方針、作業スケジュール、作業分担の協議
- ・作業進捗の確認、文章ドラフトの協議

P-55 「海事産業における製品情報の高度利用のための情報共有基盤SPEEDSのプロトタイプの実装」研究委員会

委員数：濱田邦裕委員長ほか44名

P-40研究委員会の成果に立脚し、SPEEDSのプロトタイプを実装して仕様の妥当性を確認するとともに、SPEEDSの本格的開発によって得られる効果を具体化・明確化することを目的に、以下の通り活動した。なお、本研究は国土交通省先進安全船舶・造船技術研究開発費補助金（革新的造船技術研究開発）を受けた。本年度は「船舶定期検査・修繕記録システム」および「機装品取付支援システム」のプロトタイプを開発した。開発成果はSea Japan 2018等で報告を予定している。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	29.06.02	SHI-ME	29名	1件
第2回	29.09.20	東京大学（柏の葉）	31名	1件
第3回	30.01.16	常石造船	31名	1件

実施事項：

- ・実装仕様の策定
- ・プロトタイプシステムのデモおよび効果確認
- ・来年度活動方針確認

4. ストラテジー研究委員会

戦略的課題について研究するストラテジー研究委員会が、新たに1件（S-15）活動を開始した。今期の委員会活動は以下のとおりである。

S-15 海底・海底下資源開発ストラテジー研究委員会

委員数：山崎哲生委員長ほか11名

平成29年度に実海域における産出試験を実施したメタンハイドレート、採鉱・揚鉱試験を実施した海底熱水鉱床の開発状況について、調査、分析、報告、議論を行った。また、平成30年春季講演会OSを企画した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	29.12.19	東京大学本郷キャンパス	12名	2件
第2回	30.03.29	東京大学本郷キャンパス	13名	2件

実施事項：

- ・海底・海底下資源開発の調査、分析、報告、議論
- ・委員会の目標設定に関する議論
- ・OS企画等対外活動に向けた議論

5. 研究会

船舶海洋工学に係わる情報交換および技術交流を支援・促進するため各種研究会を設置し、研究発表およびシンポジウム開催等の活動を実施した。現在設置の研究会は次のとおりである：推進・運動性能研究会、船体構造研究会、材料・溶接研究会、建造革新研究会、造船設計・生産技術研究会、海洋工学研究会、海洋環境研究会、情報技術研究会。

推進・運動性能研究会

会員：岩下英嗣会長ほか278名

船舶・海洋建造物の推進・運動性能に関して広く情報交換を行い、この分野の研究交流を促進して、関連分野の発展に寄与することを目的として、以下の研究会を実施した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第7回	29.6.19-20	大阪大学中之島センター	43名	12件
第8回	29.10.19-20	広島大学ライブラホール	42名	11件
第9回	30.2.27-28	三井造船沼島研究所	50名	13件

実施事項：

- ・特別講演「内航海運のための省エネ母船型の研究開発委員会活動報告」
- ・施設見学（広島大学試験水槽、風洞装置）
- ・その他一般研究発表と討議

船体構造研究会

船体構造分野の研究企画に関する意見交換を行い、構造系3研究会の情報共有により、学会内活動の有効化・活性化を図った。なお、本研究会は関係する三支部の構造研究会より構成するため、各研究会のメール審議を基本とした。

回	期日	場所	参加者数
第1回	29.6.15-20	メール審議	4名
第2回	29.10.6-31	メール審議	4名
第3回	30.1.29-2.2	メール審議	4名

三支部の構造研究会活動

回	期日	場所	出席者数
1) 東支部構造研究会活動			
第45回	29.5.17	NK 本部管理センター本館	24名
第46回	29.9.13	横国大 YNU ミュージアム	21名
第47回	30.1.10	東大工学部3号館	21名
2) 関西支部 KSSG 研究会活動			
第115回	29.6.13	新大阪丸ビル新館	24名
第116回	29.8.2	新大阪丸ビル別館	17名
第117回	29.11.13	ネットカンファレンス大阪	33名
第118回	30.3.13	新大阪丸ビル別館	22名

3) 西部支部構造研究会活動

第 37 回	29.5.16	海峡メッセ下関国際貿易ビル	38 名
第 38 回	29.9.20	尾道ロイヤルホテル	35 名
第 39 回	30.1.23	JR 博多シティ	35 名
講習会	29.12.7	福岡リファレンス駅東ビル	43 名

材料・溶接研究会

会員：栗飯原周二会長ほか 49 名

船体構造材料・溶接・破壊力学分野について、最新研究の情報交換及び討議を行った。また、構造系四研究会合同交流会において本研究会から 1 件の講演を提供した。実施詳細を以下に記す。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第 36 回	29.6.23	東京大学山上会館	14 名	3 件
第 37 回	29.9.29	東京大学工学部 3 号館	13 名	3 件
第 38 回	30.3.9	東京大学工学部 3 号館	32 名	5 件

第38回は溶接学会溶接構造研究委員会との合同委員会として開催した。

建造革新研究会

会員：後藤浩二会長ほか 41 名

船舶建造の船殻分野に関わる諸問題の解決及び情報交換を行うことを目的とし、3つのワーキンググループにより下記の活動を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
総会	29.6.15	三菱下関	45 名	6 件

WG1:

第 1 回	29.6.16	三菱下関	17 名	6 件
第 2 回	29.9.7-8	大島造船	14 名	7 件
第 3 回	29.12.12-13	JMU 有明	14 名	8 件

WG2:

第 1 回	29.6.16	三菱下関	14 名	6 件
第 2 回	29.9.7-8	JMU 呉	10 名	7 件
第 3 回	29.11.30-12.1	JMU 津	10 名	7 件

WG3:

第 1 回	29.6.16	三菱下関	10 名	6 件
第 2 回	29.9.14-15	サノヤス	11 名	8 件
第 3 回	29.12.7-8	JMU 磯子	12 名	8 件

造船設計・生産技術研究会

会員：篠田岳思会長ほか 4 部会合わせて 96 名

船舶・海洋構造物の船体・機関・電装における技術的諸問題を考究し、その成果を設計や生産に関する指針・基準として纏め、設計・生産技術の高度化を図ることを目的として活動を展開した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
---	----	----	------	------

造船設計部会：田中進部会長

第 126 回	29.9.29	KKR 広島ホテル	24 名	5 件
第 127 回	30.3.1-2	三井造船千葉	22 名	4 件

船体艤装工作部会：篠田岳思部会長

第 36 回	29.6.29-30	川重神戸	17 名	4 件
第 37 回	29.11.20-21	函館どっく	17 名	4 件
第 38 回	30.3.5-6	三井造船玉野	19 名	4 件

機関艤装部会：井上順広部会長

第 19 回	29.11.13-14	三菱長崎	20 名	7 件
--------	-------------	------	------	-----

電気艤装部会：金子仁部会長

第 17 回	29.11.9-10	三井造船千葉	20 名	7 件
--------	------------	--------	------	-----

海洋工学研究会

会員：居駒知樹会長ほか 105 名

海上および海中の海洋構造物、海洋エネルギー利用などの海洋工学に関する研究を促進・支援するために、研究会の開催、見学会、若手研究者の育成を目的とした海外派遣などを以下の

とおり実施した。

研究会開催（海洋環境研究会と合同）

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第 34 回	29.8.28	東京大学柏キャンパス	28 名	6 件
第 35 回	29.12.15	大阪府大 i-site なんば	23 名	2 件
第 36 回	29.3.26	リファレンス博多駅東	29 名	10 件

実施事項：

- ・日本海洋工学会と第 27 回海洋工学シンポジウムを共催するために、実行委員長 1 名、実行委員 4 名を当研究委員会より選出した。平成 30 年度 8 月に開催される当該シンポジウムの方針などについて実行委員を通して意見を反映させた。
- ・若手海外派遣調査事業を実施し、藤田直樹氏を OTC2017（アメリカ合衆国、テキサス州ヒュートン）へ派遣した。
- ・P-53 への会員の参加による活動支援
- ・水槽設備見学会（29.8.28、東京大学柏キャンパス）
- ・浮体式風力発電装置見学会（29.12.15、日立造船工場）

海洋環境研究会

会員：今井康貴会長ほか 79 名

海洋環境の調査・保全・修復、海洋環境変動の評価・予測等に関する研究を推進・支援するため、海洋環境研究会を下記の通り開催した。また、10 月 12 日から 14 日まで韓国済州島にて East Asian Waters Ocean Marine Environmental Network (EAWOMEN2) 会議（参加者：東南アジア諸国を中心に約 100 名）を韓国・台湾・中国の関係諸機関と共同開催した。また若手派遣事業として 2018 Natural Capital Symposium に 1 名（東大大学院生）を派遣し研究発表と情報収集を行った。

研究会開催（海洋工学研究会と合同）

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第37回	29.8.28	東大柏キャンパス	28名	6件
第38回	29.12.15	府大I-siteなんば	21名	2件
第39回	30.3.26	博多リファレンス駅東ビル	29名	10件

実施事項：

- ・東大柏キャンパス水槽見学会、
- ・日立造船にて洋上風力模型実験装置製作現場見学会
- ・EAWOMEN2 共同開催
- ・若手派遣 2018 Natural Capital Symposium (30.3.18-23)

情報技術研究会

会員：青山和浩会長ほか 44 名

造船および海事産業の情報技術に関する調査研究とニーズや技術課題の発掘を目的に、以下の通り活動した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第 36 回	29.06.01	SHI-ME	29 名	4 件
第 37 回	29.09.19	東京大学（柏の葉）	31 名	5 件
第 38 回	30.01.15	常石造船	31 名	4 件

実施事項：

- ・機関紙「すうちせいぎょ」の発行
- ・情報技術（業界、他業界）に関する話題の提供と討議
- ・ICCAS2017 Singapore 出席報告

【5】国際学術協力等

1. 日韓ジョイントセッション

韓国造船学会と共同で開催して 6 回目となる日韓ジョイントセッションは、平成 29 年 11 月 2 日に韓国ソウル市の韓国造船学会秋季講演会にて、日韓 3 名ずつの講演者により行われた。日本側からは大阪大学における最新研究を、韓国側からは Smart Ship というテーマでの企業からの紹介があった。

2. Pan Asian Association of Maritime Engineering Societies (PAAMES)

平成 29 年 10 月 19 日に、韓国チェジュ島で開催された

PAAMES /AMEC (Advanced Maritime Engineering Conference) 2018 の ISC (International Standing Committee) に、柏木会長、戸田国際理事を派遣し、PAAMES/AMEC の運営に関する議論を行った。8th PAAMES/AMEC2018 (韓国プサン) にはアジアの 17 学会が参加予定で、日本から 25 件の論文が期待されることが表明された。

3. 国際対応委員会

国際的な諸活動に対応するため下記の委員会を開催した。

(1) JTTC 委員会

委員数：宇都正太郎委員長ほか 37 名

ITTC (国際試験水槽会議) への対応および船舶性能に関わる調査研究を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第 35 回	29. 6. 19	大阪大学	14 名	7 件
第 36 回	29. 10. 19	広島大学	21 名	18 件
第 37 回	30. 2. 27	三井造船昭島研究所	18 名	15 件

実施事項：

- ・第 28 期 ITTC 総会報告と第 29 期 ITTC 委員の決定
- ・第 29 期 ITTC 各委員会の進捗状況等に関する情報交換
- ・平成 29 年度予算の執行内容、機関代表等交代の承認

(2) JSSC 委員会

委員数：藤久保昌彦委員長ほか 20 名

実施事項：

- ・ISSC2018 理事会・各委員会の進捗状況に関する情報交換
- ・国内開催の ISSC2018 委員会中間会合の支援
- ・ISSC2021 委員、オブザーバーの人选

(3) PRADS 2019 実行委員会

委員数：岡田哲男委員長ほか 15 名

PRADS 2019 を平成 31 年 9 月に横浜で開催するため、準備活動を行った。

【6】シンポジウム等の開催

World NAOE Forum 2017

第 6 回目となる世界船舶海洋工学フォーラムは、日本船舶海洋工学会の創立 120 周年記念事業の一つと位置付け、長期的視野を重視して「深海底鉱物資源の開発」をテーマとすることとし、Realizing Deep-Sea Mining: Approaches and Solutions のタイトルで 9 件の講演およびパネルディスカッションを行った。

期日：平成 29 年 12 月 11 日

場所：ヒルトン大阪 (大阪市)

参加人数：198 名、内外国人 18、学生 22、非会員 74 名

【7】研究者・技術者の海外共同研究促進事業

研究活動のグローバルな活性化と国際的な人材育成の促進を目的に、平成 29 年度は海外と日本の若手研究者 (30 歳代) 間の、以下の共同研究 3 件を実施した。

- 1) 防撓パネルの最終強度算式の修正とその評価に関する研究 (広島大学-トルコ)
- 2) 日本周辺海域の波浪極値推定における空間統計手法の応用 (東京大学-英国)
- 3) グローバル高潮予報システムの構築 (東京大学-カナダ)

1), 3) は平成 29 年度の単年研究、2) は 2 年計画の研究であり平成 30 年度も継続する。平成 29 年度は上記のほか、前年度から継続の 3 件も遂行中であり、合計で 6 件の研究テーマが実施された。

また平成 30 年度の海外共同研究には、新たに 7 件の応募があったが、採択案件は今後審査を経て確定される。

【8】後援および協賛

関連学協会の講演会・シンポジウム等に 80 件の協賛と 9 件の後援

を行った。また日本学術会議が主催する講演会等を 3 件共催した。

【9】支部活動

1. 東部支部

会員および広く公益に資する目的で、海事関連の最新テーマに関するワークショップを 2 回開催した。また船の構造に係わる技術交流、研究活動のため構造研究会を実施した。

(1) 第 1 回東部支部ワークショップ

「次世代船舶における代替燃料の可能性」

期日：平成 30 年 1 月 15 日 (月)

場所：東京大学生産技術研究所コンベンションホール

参加人数：92 名 (内、非会員 54 名)

講演数：6 件、懇親会参加者：31 名

(2) 第 2 回東部支部ワークショップ

「ビッグデータ・IoT を活用したスマート SHIPPING」

期日：平成 30 年 3 月 15 日 (木)

場所：波止場会館 (横浜市港湾労働会館) 5F 多目的ホール

参加人数：69 名 (内、非会員 13 名)

講演数：7 件、懇親会参加者：27 名

(3) 東部支部構造研究会

回	期日	場所	出席者数	講演数
第 45 回	29. 5. 17	日本海事協会	24 名	4 件
第 46 回	29. 9. 13	横浜国立大学	21 名	4 件
第 47 回	30. 1. 10	東京大学	21 名	4 件

2. 関西支部

(1) 特別講演会

期日：平成 30 年 1 月 19 日

場所：神戸クリスタルタワー

題目：IMO 船内騒音コードと騒音対策

講演者：修理英幸氏 (元東海大学教授) 出席者：56 名

IMO 船内騒音コードの改正・強制化に至る経緯及び国内の対応及び造船所の騒音対策に関する共同研究への取り組みとその成果に関する講演を行った。

(2) 関西支部シンポジウム

・第 1 回シンポジウム (学生研究発表会)

期日：平成 29 年 12 月 16 日

場所：大阪科学技術センター

出席者：63 名 ポスター：19 件

・第 2 回シンポジウム

期日：平成 30 年 3 月 27 日

場所：I-site なんば 出席者：52 名

題目：実海域性能とビッグデータ

実海域性能モニタリングによるビッグデータの収集とそのウェザールーティングへの応用等について意見交換を行った。講演 3 件およびパネルディスカッション。

(3) KFR (関西船舶海洋流体力学研究会)

第 337 回例会

期日：平成 29 年 8 月 1 日

場所：大阪大学コンベンションセンター 出席者：32 名

題目：船舶復原性基準と関連研究の国際動向

一今年の国際船舶復原性ワークショップより一

第 338 回例会

期日：平成 29 年 10 月 11 日

場所：I-site なんば 出席者：38 名

題目：流体力学による省エネ船開発の最前線

第 339 回例会

期日：平成 30 年 2 月 23 日

場所：大阪大学中之島センター 出席者：32 名

題目：高速排水量型船の設計における船舶流体力学
第340回例会

期日：平成30年3月27日

場所：I-site なんば 出席者：48名

題目：実海域性能とビッグデータ

(4) KSSG (関西船体構造研究会)

第115回

期日：平成29年6月13日

場所：新大阪丸ビル新館 出席者：24名

第116回

期日：平成29年8月21日

場所：新大阪丸ビル別館 出席者：17名

第117回(4研究会合同研究会)

期日：平成29年11月13日

場所：新大阪ニッセイビル 出席者：33名

第118回

期日：平成30年3月12日

場所：新大阪丸ビル別館 出席者：22名

3. 西部支部

(1) 西部支部構造研究会

回	期日	場所	出席者
第37回	29.5.16	海峽メッセ下関	37名
第38回	29.9.20	尾道ロイヤルホテル	35名
第38回	30.1.23	JR博多シティ	35名

(2) 西部支部構造研究会シンポジウム

「造船用特殊鋼材」

期日：平成29年12月7日

場所：リファレンス駅東ビル

参加人数：43名，講演：6件

進歩が著しい造船用特殊鋼材に関する研究・開発・運用について関係する専門家から講演をいただき，今後の造船業を考える機会とした。

(3) 西部支部性能研究会

Workshop on Environmental Technologies in Naval Architecture and Ocean Engineering, 2017

期日：平成29年11月16日，17日

場所：広島大学中央図書館ライブラリーホール

参加人数：52名，講演：23件

船舶海洋分野の学生や企業の若手研究者・技術者に気軽に参加できる国際会議の場を提供するとともに当該分野の環境関連技術に関する情報交換を行った。

(4) 西部支部シンポジウム

「新技術は船を変えられるか」

期日：平成30年1月25日

場所：リファレンス駅東ビル

参加人数：46名，講演：4件

近年，ビッグデータやIoTおよびAIといった新しい技術が様々な業界で活用され，船においても新しい技術の活用が進められている現状を踏まえ，造船および海運業界の活性化に寄与することを目的に，船舶IoTデータ利活用に向けたShipDCの取り組み，造船業におけるビッグデータ・IoTの利用の可能性，造船大組立て向けロボット溶接システムの開発，造船業界におけるドローンの活用案，についての事例紹介とパネルディスカッションを行った。

(5) 西部支部特別講演会

「液中プラズマが拓く水素社会 ～廃油から水素を，そして水素で自動車を走らせよう～」

期日：平成30年1月10日

場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅前

参加人数：26名，講演：1件

愛媛大学大学院理工学研究科の野村信福教授より，液体中でプラズマを発生させる技術開発の取り組みと，これを応用して廃油をプラズマで分解し水素を生成する方法，水素を使ったスマート社会について講演いただいた。

II 啓発・広報事業

【1】能力開発センター

1. 能力開発センター運営委員会

委員数：藤久保昌彦委員長ほか5名

能力開発センターを構成する技術者資格支援委員会，CPD委員会，大学等教育支援委員会の活動を推進した。

2. 技術者資格支援委員会

委員数：上野道雄委員長ほか1名

技術士補（技術士第1次試験）の資格取得のための講習会を開催した。技術士一次試験の専門科目（機械とシステム，浮体の力学，計測・制御，材料・構造）について4名の講師による講習を行った。

期日：平成29年6月13，14日

場所：学会会議室

後援：日本マリンエンジニアリング学会，日本造船工業会

参加人数：8名

3. CPD委員会

委員数：新宅英司委員長ほか4名

継続的能力開発（CPD）ポイント蓄積システムの運用を行い，運営効率を改善するためシステムの見直しを行った。

4. 大学等教育支援委員会

委員数：安澤幸隆委員長ほか5名

日本技術者教育認定機構（JABEE）の活動に協力し，船舶海

洋系大学の教育プログラムの，JABEE 認定に向けた支援を行った。

【2】船舶海洋工学シリーズの英訳出版

海外の造船技術者育成に資する目的で「船舶海洋工学シリーズ」の英語版の翻訳・出版作業を進め，平成28年度に引き続き，第3,4巻目として「Resistance and Propulsion」，「Fundamentals of Ship Strength Analysis - Part2」を刊行した。また第5,6巻目の翻訳作業を行った。

【3】造船技術者社会人教育

若手造船技術者の実務に役立つ実践的な教育のため，日本造船工業会，日本中小型造船工業会と共催し，造船技術者社会人教育（第17回）を実施した。

【4】海洋教育推進活動

1. 海洋教育推進委員会

委員数：小林正典委員長ほか50名

(1) 委員会の開催

運営委員会，WG 戦略会議，支部委員会，フォーラム実行委員会を下記のとおり開催し，以下について審議した。

- ・海洋教育推進委員会の運営方針
- ・海洋教育フォーラム、海洋教育セミナーの計画・実施

期日	委員会名	出席者数
29.6.21	第32回運営委員会	6
29.6.21	第21回WG戦略会議	13
29.9.5	第33回運営委員会	7
29.9.5	第22回WG戦略会議	15
29.12.8	第34回運営委員会	7
29.12.8	第23回WG戦略会議	18
30.3.6	第35回運営委員会	8
30.3.6	第24回WG戦略会議	12

(2) 海洋教育フォーラムと海洋教育セミナーの開催

総計11回の海洋教育フォーラムと1回の海洋教育セミナーを、全国各地で開催した。

- ・第12回東部支部海洋教育セミナー

期日：平成29年6月21日
場所：東京海洋大学品川キャンパス
プログラム：講演18件 参加者数：22名
- ・第34回海洋教育フォーラム

「久慈湾開発と地域振興・南部潜りと海女文化」
期日：平成29年7月25日
場所：久慈グランドホテル
プログラム：講演5件 参加者数：170名
- ・第35回海洋教育フォーラム

「豊かな海『東シナ海』から、長崎の新たな挑戦」
期日：平成29年10月22日
場所：長崎大学 環東シナ海環境資源研究センター
プログラム：講演5件 参加者数：81名
- ・第36回海洋教育フォーラム

「津波による石油コンビナート災害」
期日：平成29年10月29日
場所：I-site なんば（大阪府立大学サテライトキャンパス）
プログラム：講演3件 参加者数：29名
- ・第37回海洋教育フォーラム

「洋上風力発電装置はこうして造られる」
期日：平成29年11月12日
場所：アクロス福岡会議場 608号室
プログラム：講演5件 参加者数：24名
- ・第38回海洋教育フォーラム

「海の研究最前線～大学の研究者と話そう～」
期日：平成29年11月26日
場所：秋田市役所 洋室4
プログラム：講演4件 参加者数：48名
- ・第39回海洋教育フォーラム

「いま瀬戸内海の環境はどうなっているの？」
期日：平成29年12月2日
場所：JMS アステールプラザ
プログラム：講演4件 参加者数：54名
- ・第40回海洋教育フォーラム

「『ちきゅう』って何をやってるの？ー海底下のちきゅうをのぞいてみようー」
期日：平成29年12月10日
場所：静岡県男女共同参画センター「あざれあ」
プログラム：講演5件 参加者数：97名

- ・第41回海洋教育フォーラム

「海のいろいろ」
期日：平成29年12月16日
場所：東京海洋大学越中島
プログラム：講演3件 参加者数：103名
- ・第42回海洋教育フォーラム

「利根川がつなぐ群馬と太平洋」
期日：平成30年2月24日
場所：前橋市民文化会館
プログラム：講演4件 参加者数：110名
- ・第43回海洋教育フォーラム

「今治の造船のはなし」
期日：平成30年3月3日
場所：みなと交流センター
プログラム：講演4件 参加者数：76名
- ・第44回海洋教育フォーラム

「私たちの海『水産資源と町づくり』」
期日：平成30年3月17日
場所：記念艦「三笠」講堂
プログラム：講演4件 参加者数：77名

(3) 海洋教育に関する広報活動

- ・海洋教育に関するイベントの紹介記事を学会誌に掲載した。
- ・海洋教育イベント情報をホームページに掲載した。
- ・「海の不思議箱」のコンテンツを追加・充実した。

(4) 海洋教育に関する企画

- ・国内の海事関連団体・企業に赴き、海洋教育に関連する各機関の取り組みについて情報収集を実施した。(WG4)
- ・国立科学博物館の2017夏休みサイエンススクエアにおいて、海と船の工作ひろば「すいすい推力船を作ってみよう！」、バンドー神戸青少年科学館で、すいすい水力推力船の工作教室、船の科学館で、「みずパワーで船を動かしてみよう！」、東京大学柏キャンパスにて「水の力で進む船を作ろう！」を実施した。(WG5)
- ・海洋型自然体験学習として、群馬にて親子対象の海藻おしぼワークショップを実施した。(WG8)

2. 青少年啓蒙活動

(1) 西部支部夏休みおもしろ船教室

自然エネルギーを利用したエコロジー船の科学2017

期日：平成29年8月5日

場所：東広島キャンパス 参加者数：30名

プログラム：エコロジー船と海洋について（体験学習）

波浪推進船の走行試験見学、鉄の脆性破壊実験、摸型船製作

(2) その他啓蒙活動

そのほか下記の活動を共催・後援した。

- ・海技大学校施設公開 練習船「海技丸」体験航海と講演会(29.7.21)
- ・長崎総合科学大学おもしろ船教室(29.8.25)
- ・'17水中ロボットコンベンションin JAMSTEC(29.8.25-27)

3. 一般向け講演会の開催

表2-1のとおり造船系8大学にて小学生から高校生を含む一般向けの講演会等を開催した。本事業は日本造船工業会より補助金を受けた。

表2-1 一般向け講演会

大学	開催日/場所	参加者
東京大学	平成 29 年 11 月 23 日 東京夢の島マリーナ	50
東京海洋大学	平成 29 年 7 月 17 日 東京海洋大学敷地内野外	120
	平成 29 年 9 月 24 日 東京海洋大学船水槽実験室	70
	平成 29 年 11 月 12 日 江東区	60
横浜国立大学	平成 29 年 7 月 17 日 横浜国立大学キャンパス	55
	平成 29 年 8 月 26 日 横浜国立大学キャンパス	49
大阪大学	平成 29 年 11 月 23 日 大阪大学 (講義室 二次元水槽)	5
大阪府立大学	平成 29 年 8 月 4 日 大阪狭山市立公民館	19
	平成 29 年 8 月 5 日 大阪狭山市立公民館	19
	平成 29 年 8 月 4 日 山口高校・徳山高校・岩国高校	120
広島大学	平成 29 年 10 月 16 日 高松第一高校	40
	平成 29 年 10 月 7,8 日 伊都キャンパス	58
長崎総合 科学大学	平成 29 年 10 月 14,15 日 長崎市科学館	100
	平成 29 年 11 月 3,4 日 長崎総合科学大学	1,000 (学園祭)
	平成 29 年 11 月 15 日 長崎工業高等学校	40
	平成 29 年 12 月 4, 26 日 大島造船所	28

4. 夏の学校

2泊3日または1泊2日で、性能・運動分野および構造強度・材料溶接分野の専門家に講義を依頼し、若手技術者の専門教育の充実、および交流を促進する「夏の学校」を以下のように開催した。

(1) 性能・運動分野

期日：平成 29 年 9 月 24～ 26 日

場所：大阪府立青少年海洋センター

参加者数：27名

プログラム：特別講義 2 件，基礎講義 3 件

(2) 構造強度・材料溶接分野

期日：平成 29 年 9 月 4～6 日

場所：高野山大学

参加者数：26名

プログラム：講義 5 件

【5】会誌発行

会員および広く一般に海事関連の最新情報を提供し、また学会活動を広報・周知するため、学会誌「KANRIN」を隔月に発行した。

(1) 学会誌編集委員会

委員数：西村信一委員長ほか 58 名

・学会誌発行の全体計画および調整のため、下記の編集幹事会を開催した。

回	期日	場所	出席者数
第 49 回	29.4.3	福岡 (はかた近代ビル)	8

第 50 回	29.8.4	大阪 (新大阪丸ビル)	10
第 51 回	29.11.2	福岡 (JR 博多シティ)	11
第 52 回	30.1.30	学会会議室	7

・特集等の企画・編集のため、各支部単位の編集委員会を随時開催した。

・各支部編集委員会の分担により、学会誌第 72 号～77 号を編集した。

・研究企画委員会との連携で、連載解説記事「ここまできた CAE」の連載を第 73 号まで継続した。連載解説記事「港内船舶の係留問題最前線」の連載を第 77 号から開始した。

・平成 28 年度より開始した「会員の声」の掲載を継続した。

(2) 刊行

日本船舶海洋工学会誌「KANRIN」第 72 号から 77 号までの 6 冊を表 2-2 のとおり刊行し会員に配布した。

表 2-2 日本船舶海洋工学会誌「KANRIN」発行

会誌・号・発行月	頁数	発行部数
KANRIN 第 72 号 (平成 29 年 5 月)	81	5,100
KANRIN 第 73 号 (平成 29 年 7 月)	114	5,100
KANRIN 第 74 号 (平成 29 年 9 月)	72	5,100
KANRIN 第 75 号 (平成 29 年 11 月)	70	5,100
KANRIN 第 76 号 (平成 30 年 1 月)	69	5,100
KANRIN 第 77 号 (平成 30 年 3 月)	88	5,100
計	527	30,600

【6】電子情報サービス

会員をはじめとする国民一般への広報・情報発信として、学会ホームページの管理運用を行った。また会員の利便性向上の一環として、モバイル対応のためホームページの全面リニューアルを行うとともに、ホームページ活性化のために、フォトギャラリーにて、第3回フォトコンテストを実施した。

(1) 情報管理委員会

委員数：吉田泰三委員長ほか3名

下記のとおり4回の情報管理委員会を開催し、主として学会ホームページの運用に関する審議を行った。

回	期日	場所	出席者数
第1回	29.4.20	学会会議室	7
第2回	29.6.21	学会会議室	7
第3回	29.10.4	学会会議室	7
第4回	30.1.18	学会会議室	6

(2) 主な実施事項

- ・日本船舶海洋工学会ホームページの企画・管理・運用
- ・メールニュースNo.271～295の発行
- ・会員サイトのコンテンツの追加・充実
- ・第3回フォトコンテストの実施

【7】褒賞

日本船舶海洋工学会細則第 33 条から 36 条にもとづき、学会賞、船舶海洋技術賞等を授与した。

- 平成29年度定時総会において、表2-3 のとおり日本船舶海洋工学会賞・日本造船工業会賞・日本海事協会賞を授与した。
- 平成29年度定時総会において、表2-4 のとおり第41回船舶海洋技術賞が貴島勝郎君に授与された。
- 平成29年度定時総会において、表2-5 のとおり日本船舶海洋工学会奨励賞(乾賞)を授与した。
- 平成29年度定時総会において、表2-6 のとおり日本船舶海洋工学会賞(開発等)を授与した。

表 2-3 論文賞

日本船舶海洋工学会賞 日本造船工業会賞 論文名：バラストタンク耐食鋼適用船の塗装劣化挙動 受賞者：塩谷和彦 (JFE スチール), 橋 俊一 (JFE スチール)
日本船舶海洋工学会賞 日本海事協会賞 論文名：Hull-form Optimization Using Parametric Modification Functions and Particle Swarm Optimization 受賞者：Hee-Jung Kim (三星重工) Jung-Eun Choi (釜山大) Ho-Hwan Chun (釜山大)

表 2-4 船舶海洋技術賞

受賞者：貴島 勝郎 (九州大学名誉教授)

表 2-5 奨励賞 (乾賞)

論文名：船舶建造プロセスシミュレーションを用いた生産設備の導入に関する研究 受賞者：満行 泰河 (東京大学)
論文名：地面効果内を巡航する3次元翼の翼表面圧力分布と空力特性, ほか2編 受賞者：伊藤 悠真 (広島大学)
論文名：船底局部荷重を考慮したコンテナ船の縦曲げ最終強度解析に関する研究 ー第1報, 第2報ー 受賞者：辰巳 晃 (大阪大学)

表 2-6 著書・開発・発明賞

日本船舶海洋工学会賞 著書：LNG・LH2のタンクシステム ー物理モデルとCFDによる熱流動解析ー 受賞者：古林 義弘 (コモテクノ)
日本船舶海洋工学会賞 題名：バラスト水処理装置のレトロフィット設計作業に貢献するソフトウェア“ClassNK-PEERLESS”の開発 受賞者：平田純一 (日本海事協会) 永留隆司 (日本海事協会)
日本船舶海洋工学会賞 題名：省エネ付加物性能評価のための新船型開発および流体データベースの構築とCFD解析ガイドラインの策定 受賞者：日野孝則 (横浜国大) 平田信行 (海技研) 大橋訓英 (海技研) 戸田保幸 (大阪大学) 朱庭耀 (NK) 大森拓也 (JMU) 高井通雄 (SHI-ME) 木村校優 (三井造船昭島) 西垣亮 (三菱重工業) 按田正樹 (川崎重工業) 金井健 (日本船舶技術センター)

表 2-9 奨学褒賞 (高等学校)

学校名	受賞者
山口県立下関中央工業高等学校	池川 倫太郎
高知県立須崎工業高等学校	村上 春樹
長崎県立長崎工業高等学校	江島 惇温

表 2-7 奨学褒賞 (大学, 大学校)

学校名, 学科名	受賞者
東京大学 工学部システム創成学科 大学院工学系研究科システム創成学専攻 大学院新領域創成科学研究科	古田 泰之 樺田 真大 野口 侑要
横浜国立大学 理工学部建築都市・環境系学科 大学院工学府システム統合工学専攻	船田 純希 吉岡 稜平
東京海洋大学 海洋工学部海事システム工学科 海洋工学部海洋電子機械工学科 海洋工学部流通情報工学科 海洋科学技術研究科海運ロジスティクス専攻	岸田 宇一郎 鈴木 雅也 名幸 颯 佐々木 和也
神戸大学 海事科学部グローバル輸送科学科 海事科学部海洋安全システム科学科 海事科学部マリンエンジニアリング学科 海事科学研究科	松崎 湧太 辻岡 怜子 藤野 功貴 永石 雄飛
大阪大学工学部 地球総合工学科船舶海洋工学科目 大学院工学研究科地球総合工学専攻	花木 孝明 谷口 拓也
大阪府立大学工学域機械系学類 海洋システム工学課程 大学院工学研究科航空宇宙海洋系専攻	橋本 和樹 河尻 義貴
東海大学海洋学部 航海工学科海洋機械工学専攻	原田 和栞
広島大学工学部 第四類輸送機器環境工学プログラム 大学院工学研究科輸送・環境システム専攻	長谷川 彰浩 河脇 健人
九州大学工学部地球環境工学科 船舶海洋システム工学コース 大学院工学府海洋システム工学専攻 総合理工学府大気海洋環境システム学専攻	上村 崇杜 田中 亜早人 大西 晃廣
長崎総合科学大学 工学部工学科船舶工学コース 大学院工学研究科生産技術学専攻	井崎 一希 黒田 健悟
海上保安大学校 本科第一群 本科第二群	扇野 真文 宮脇 昇哉
海技大学校 海上技術コース (航海専修) 海上技術コース (機関)	渡辺 祐太郎 梅崎 従之進

表 2-8 奨学褒賞 (商船高等専門学校)

学校名	受賞者
弓削商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	堀切 桃花 入江 史城
大島商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	瀧口 拓海 中村 賢弥
富山高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	早平 光志郎 竹村 希望
鳥羽商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	中山 航志 井賀 智亮
広島商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	FIRDAUZ RAHMAN 岡田 颯太

- 5) 船舶海洋系大学および大学院（修士課程）の卒業者の中から成績優秀な者に表2-7のとおり、奨学褒賞を授与した。
- 6) 商船高等専門学校等の卒業者の中から成績優秀な者に表2-8のとおり、奨学褒賞を授与した。
- 7) 工業高等学校の卒業者の中から成績優秀な者に表2-9のとおり、奨学褒賞を授与した。

【8】シップ・オブ・ザ・イヤー授賞

毎年日本で建造された船舶・海洋構造物の中から、技術的・芸術的・社会的に優れた作品を選考して表彰するシップ・オブ・ザ・イヤーの第27回目となるシップ・オブ・ザ・イヤー2016を選定した。

平成29年5月29日、応募作品の発表会と選考会が実施され、選考委員会において表2-10に示す作品が各賞に選定された。平成29年7月7日に開催された海事三学会合同表彰式（海運クラブ）において、受賞作品の表彰を行った。

表2-10 シップ・オブ・ザ・イヤー受賞作品

シップ・オブ・ザ・イヤー2016	DRIVE GREEN HIGHWAY
技術特別賞	TARANAKI SUN, MANCHAC SUN, CAJUN SUN
大型客船部門賞	フェリーしまんと
小型客船部門賞	ひめしま
大型貨物船部門賞	NYK Blue Jay
小型貨物船部門賞	勇青昇
漁船・作業船部門賞	梅丸
特殊船部門賞	AUGUST EXPLORER

【9】広報活動

各種イベントにおけるパンフレットの配布等、学会活動を広く周知し入会者の増加を図る目的で広報宣伝活動を継続した。

【10】創立120周年記念事業

日本船舶海洋工学会は、明治30年（1897年）の造船協会設立から数え平成29年に創立120周年を迎えた。これを記念するため、以下を創立120周年記念事業として行った。

- 記念式典、講演会、祝賀会の開催
- 船舶・海洋工学技術20年史の編纂
- 船舶・海洋に関する啓蒙書の出版
- 国際シンポジウムの開催（World NAOE Forum 2017）
- 技術開発パネル展示と記念DVDの制作

(1) 記念講演会

創立120周年記念講演会は、平成29年5月22日12:50～15:00に明治記念館（東京都港区）富士の間において開催され、官界および産業界から各界の現状と本会への期待についてご講演をいただいた。また記念事業の一つとして編纂された船舶・海洋工学技術20年史の内容について報告された。

(2) 記念式典

創立120周年記念式典は、平成29年5月22日15:20～16:00に、明治記念館 富士の間において開催され、各界からの来賓や、当会名誉会員、功労会員、賛助会員各社の代表、一般会員など約200名の方々からご参列した。原壽会長の式辞のあと、来賓の方々からご祝辞をいただき、海外学協会からのメッセージの紹介等が行われた。

(3) 記念祝賀会

創立120周年記念祝賀会は、記念講演会、記念式典に引き続いて明治記念館 富士の間で開催され、200名以上が参加し盛大に執り行われた。中盤ではシップ・オブ・ザ・イヤーの歴代受賞船を紹介するビデオが披露され、後日記念DVDとして配布された。

(4) 記念出版

船舶・海洋工学技術史（1996～2015）

日本造船学会の創立100周年に際して「日本造船技術百年史」が出版されており、本書はその後の20年間の技術動向および学会事業について記録することを目的に編纂・出版された。式典で配布したほか学会ホームページにPDFを掲載した。

船舶・海洋に関する啓蒙書「海洋へのいざない」

若い世代に海洋に対する夢と興味を持ってもらい、海洋分野への進学・就職をいざなう目的で、中高校生を主な対象として制作した。海洋に関する全ての分野を専門家が解りやすく、また一項目を見開き二頁に纏めている。イラスト、図、写真を多用し、カラフルで見やすい編集とした。

(5) 技術開発パネル展示と記念DVDの制作

記念式典（5月22日）と引き続き春季講演会（23,24日、東京大学生産技術研究所）への多数の参加者に、賛助会員各社や団体の最新の技術開発状況を紹介する目的で、各社によるパネル展示を行った。また、記念講演会、記念式典、祝賀会の様子を伝えるため記念DVDを制作し、全会員に配布した。

【11】ふね遺産の認定事業

昨年度開始した第1回ふね遺産公募に応募のあった24件から、ふね遺産認定実行委員会を選定した候補案を審査委員会で審査の結果、表2-11に示す第1回認定案件9件を決定した。平成29年7月18日に明治記念館に於いて認定式を開催し、認定案件所有者に認定書および認定プレートを授与した。また第2回ふね遺産の公募を行い、応募案件11件から候補案を選定した。

表2-11 第1回ふね遺産認定

認定案件	所在地・所有者
日本丸	横浜市
ガリンコ号1	紋別市
復元菱垣廻船「浪華丸」	大阪市
金華山丸のブリッジ設置機関制御コンソール	(株)商船三井
旧浦賀船渠(株)のドック	住友重機械工業(株)
下関旧第四港湾建設局船渠	下関市
東京大学船型試験水槽	東京大学
船舶搭載型航海性能計測コンテナ	横浜国立大学
平賀譲文書	東京大学

【12】支部活動

1. 東部支部

(1) 若手研修・意見交換会

海事産業に関わる若手世代の親睦を深め、海事産業にまつわる情報共有や問題意識の啓発を図るため、若手研修・意見交換会を開催した。本年度は、(株)商船三井様のご協力を頂き、東京国際コンテナターミナル（大井埠頭）を見学し、国際物流の玄関口である本施設の見学、並びに業務内容に触れることで、ターミナル運営/コンテナ荷役の効率化、海上輸送の効率化についての意見交換を行った。また研修会では、ターミナル運営の全容、並びに邦船3社コンテナ事業統合後のターミナルの有

り方についての講演も受けた。

期日：平成30年3月13日

場所：(株)商船三井、東京国際コンテナターミナル

参加人数：23名

(2) 海事産業へのお誘い

海事産業へ興味を持つ全ての大学生・大学院生を対象とした海事産業へのお誘いを開催した。参加団体による個別説明会、概要説明パネルの展示を行い、海事産業の魅力を周知することに努めた。

期日：平成29年3月6日

場所：東京海洋大学 品川キャンパス 楽水会館

参加人数：23名、参加団体数：15団体

(3) 学生のための社会見学

海事・造船関係機関の実務への関心の拡大を図る目的で、学生を対象とした海事・造船関係機関の社会見学を実施した。今年度は、海上技術安全研究所を訪問し、実験施設4か所(①400m試験水槽、②実海域再現水槽、③操船リスクシミュレータ及び④深海水槽)の見学を行い、各実験施設では、施設及び当該施設を利用した主な実験について概要説明を受けた。さらに研究業務について理解を深めるために、各施設を利用した研究について紹介を受けた。

期日：平成29年9月11日

場所：海上・港湾・航空技術研究所 海上技術安全研究所

参加人数：18名

(4) 東部支部情報管理委員会

会員等に対する情報提供として、支部ホームページの管理、メールニュース(No.44から46)の発行を行った。

2. 関西支部

(1) 若手技術者研修会

委員数：藤久保会長ほか8名

第1回見学および講演

期日：平成29年6月23日 出席者：6名

場所：大阪大学船舶海洋試験水槽および接合科学研究所

第2回見学

期日：平成29年9月22日 出席者：6名

場所：今治造船丸亀事業本部・川崎重工業坂出工場

第3回見学

期日：平成29年10月20日 出席者：6名

場所：サノヤス造船水島製造所・三井造船玉野事業所

第4回見学

期日：平成29年11月17日

場所：JMU津事業所 出席者：6名

第5回見学

期日：平成29年12月14日

場所：キャタピラージャパン明石事業所 出席者：6名

第6回見学

期日：平成29年12月15日

場所：新日鐵住金広畑工場 出席者：6名

(2) 造船資料保存委員会

委員数：内藤委員長ほか28名

期日：平成29年11月20日

場所：神戸大学海事科学部 出席者：19名

(3) 関西シニア海事研究会

総会(平成29年7月8日)

場所：神戸クリスタルホール 出席者：40名

(4) 支部長賞

・支部長賞(2件)

間野正己：造船構造分野におけるアジア地域での技術交流

促進と発展に対する貢献

姫野洋司：船舶流体力学分野におけるアジア地域で若手研究者育成と学術発展への貢献

・支部長賞(奨励)(4件)

荒牧梨花子(阪大)、大杉御月(阪大)、桑野麻子(阪大)、

森岡圭(神大)

(5) 海事産業説明会

期日：平成29年12月16日

場所：大阪科学技術センター

テーマ：

①海運業界の現在と今後の展望、山田哲也氏(商船三井)

②造船業界の現在と今後の展望、阪口克典氏(JMU)

学生参加者：108名 参加団体：21団体

(6) 見学・講演会

期日：平成29年9月9日

場所：深日港一洲本航路上

テーマ：深日港一洲本航路の復活をめざして

参加者：31名

(7) 学生・若手会員募集

学生会員勧誘のための学会紹介パンフレットを製作し、学生会員の拡大を図った。

3. 西部支部

(1) 西部支部セミナー

「世界の造船業の最新状況」

期日：平成29年10月5日

場所：リファレンス駅東ビル

参加人数：51名、講演：3件

パナマ運河拡張・バラスト水管理条約の発効・環境対応規制の強化・荷動き量の減少など、造船に関わる最新の状況を把握し、造船界を活性化することを目的として、パナマ運河拡張に伴う船型大型化の動向、バラスト水管理条約発効に対する対応、国際海運からの温室効果ガス排出削減対策、など最新のトピックスを紹介した。

(2) 西部支部若手技術者交流会(ワークショップ)

期日：第1回 平成29年8月25、26日

第2回 平成29年9月29、30日

場所：リファレンス駅東ビル5F

参加人数：22名(若手16名、アドバイザー4名、ほか2名)

所属組織の垣根を越えた課題解決を通じて若手技術者間の交流や情報交換を行い、仕事や研究へのモチベーションの醸成を図り、わが国の船舶・海洋工学分野の将来課題について認識を深め、課題解決のマインド作りをするワークショップ。若手技術者・研究者とアドバイザーによる4グループで、「日本の造船及び海事産業の魅力向上と情報発信」、「日本の造船業の地位向上に向けた戦略」、「造船所の将来像(設計)」、「同(生産技術)」の課題解決に取り組んだ。

(3) 西部支部見学会

「東広島・呉酒蔵と大和ミュージアムを巡る旅」

期日：平成29年10月22日 参加者：12名

場所：東広島市、呉市

船舶・海洋工学等への知見を深めることを目的とし、東広島市にある四つの酒蔵、呉市の大和ミュージアム、てつのくじら館を見学し、戦前・戦後の軍艦や船舶の建造技術、潜水艦の任務等を理解した。

(4) 広報編集委員会

回	期日	場所	出席数
第30回	29.5.19	リファレンスはかた近代ビル	13名
第31回	29.11.14	リファレンスはかた近代ビル	15名

このほか随時、電子メールにより学会誌の企画・編集に関わる審議を行った。
(5) 電子情報委員会

電子メールにより関連課題の審議を行った。
(6) 広報活動など
メールマガジン第71号～第76号を配信した。

III 事務報告

【1】役員

平成29年度定時総会において以下の理事、監事が選任された。また平成29年度第2回定例理事会において理事の職務分担を決定した。

理事(会長)	柏木 正	理事(学術国際)	古川 芳孝
理事(副会長)	鈴木 英之	理事(財務)	河地 三郎
理事(副会長)	藤久保 昌彦	理事(企画)	松本 光一郎
理事(副会長)	土井 康明	理事(企画)	藤田 均
理事(国際)	戸田 保幸	理事(情報)	吉田 泰三
理事(研究)	菅 勇人	理事(広報)	宇都 正太郎
理事(学術)	山崎 哲生	監事	衛藤 壽一
理事(編集)	西村 信一	監事	河部 香
理事(庶務)	鳥井 幸典	監事	鈴木 和夫

【2】会合

1. 定時総会

平成29年度(第122期)日本船舶海洋工学会定時総会を代議員66名(内書面による議決権行使31名,定足数42名)の出席者のもと下記のとおり開催し,平成28年度(第121期)事業報告(報告事項)および収支決算報告等を審議して可決した。また次期役員を選任した。

期日:平成29年5月23日 13:00~14:00

場所:東京大学生産技術研究所(東京都目黒区)

議事:

- (1) 平成28年度(第121期)事業報告,決算報告
- (2) 平成29年度(第122期)事業計画,収支予算
- (3) 基本財産の一部振替
- (4) 役員を選任

2. 理事会

平成29年度(第122期)第1回定例理事会

日時:平成29年4月28日(火)14:30~17:00

場所:日本船舶海洋工学会 会議室

出席:理事14名,監事2名,事務局1名

欠席:理事1名,監事1名

主要議事:

- ・平成28年度(第121期)事業・決算報告に関する審議
- ・平成29年度定時総会に関する審議
- ・内規の改定に関する審議

平成29年度(第122期)第2回定例理事会

日時:平成29年5月23日(金)15:00~17:30

場所:東京大学生産技術研究所 会議室

出席:理事13名,監事3名,事務局1名

欠席:理事2名

主要議事:

- ・代表理事(会長)の選任
- ・副会長,業務執行理事の選任

平成29年度(第122期)第3回定例理事会

日時:平成29年7月21日(金)14:00~17:30

場所:日本船舶海洋工学会 会議室

出席:理事11名,監事3名,事務局1名

欠席:理事4名

主要議事:

- ・研究委員会の設置に関する審議
- ・ふね遺産認定事業に関する審議
- ・学会講演会の活性化に関する審議

平成29年度(第122期)第4回定例理事会

日時:平成29年9月15日(金)14:00~17:30

場所:中央電気倶楽部 会議室

出席:理事13名,監事2名,事務局1名

欠席:理事2名,監事1名

主要議事:

- ・海事三学会合同シンポジウム計画に関する審議
- ・学会講演会・論文集の活性化に関する審議
- ・業務執行状況報告

平成29年度(第122期)第5回定例理事会

日時:平成29年12月1日(金)14:00~17:00

場所:JR博多シティ 会議室

出席:理事13名,監事2名,事務局1名

欠席:理事2名,監事1名

主要議事:

- ・新規研究委員会設置に関する審議
- ・学会講演会・論文集の活性化に関する審議
- ・能力開発センターに関する審議

平成29年度(第122期)第6回定例理事会

日時:平成30年1月26日(金)13:30~17:30

場所:日本船舶海洋工学会 会議室

出席:理事15名,監事3名,事務局1名

欠席:なし

主要議事:

- ・平成30年度事業計画・予算案に関する審議
- ・研究委員会および重点研究に関する審議
- ・World NAOE Forum 開催に関する審議

平成29年度(第122期)第7回定例理事会

日時:平成30年3月16日(金)13:30~17:30

場所:中央電気倶楽部 会議室

出席:理事14名,監事2名,事務局1名

欠席:理事1名,監事1名

主要議事:

- ・平成30年度(第123期)事業計画・予算に関する審議
- ・名誉会員・功労会員の推薦
- ・学会賞の授賞に関する審議

【3】会員の異動

1. 会員数推移

平成30年3月31日現在,会員総数は個人会員4,429名,賛助会員139団体,計4,568となった。(表3-1)

表3-1 会員数推移

種別	前期末 (29年3月 31日)	当期末 (30年3月 31日)	増員	減員	増減
正会員	4,197	4,160	49	86	-37
(内名誉会員)	(38)	(38)	4	4	0
(内功労会員)	(60)	(59)	3	4	-1
(内終身会員)	(945)	(911)	6	40	-34
(内シニア会員)	(92)	(77)	12	27	-15
(内在外会員)	(86)	(88)	6	4	2
学生会員	270	266	97	101	-4
賛助会員 特級	17	17	0	0	0
1級	9	9	0	0	0
2級	10	10	0	0	0
3級	107	103	0	4	-4
個人	3	3	0	0	0
合計	4,613	4,568	146	191	-45

2. 名誉会員、功労会員の推薦

平成29年5月23日定時総会にて下記のとおり4名が名誉会員に、3名が功労会員に推薦された。

名誉会員： 長谷川和彦 荒井 誠
池田 良穂 経塚 雄策

功労会員： 深沢 塔一 竹田 太樹 北村 満

3. 終身会員の推薦

理事会において下記6名の終身会員への推薦が承認された。

岩井 勝美 小原 磯則 中嶋 俊夫
角川 明 岡 徳昭 松永 康二

【4】委員の委嘱

下記のとおり新たに委員を委嘱した。

(1) 英文論文編集委員会

高木健, Elena Ciappi, Martin Renilson, 青山和浩, 多部田茂, 千田哲也, 後藤浩二, 岡正義, 早稲田卓爾

(2) 学会誌編集委員会

田中太氏, 刀根隆典, 千賀英敬

(3) 能力開発センター

藤久保昌彦, 山崎哲生, 古川芳孝, 松本光一郎, 藤田均, 宇都正太郎, 芳村康男, 藤原敏文, 安澤幸隆

(4) 海洋教育推進委員会

森田孝明, 松井亨介, 外谷隆司, 橋本博公

(4) 論文審査委員会

宇都宮智昭, 多部田茂, 宮崎恵子, 内野明子, 青山和浩, 松村竹実, 村上睦尚, 太田進, 井上順広, 藪下和樹, 田中寿夫, 岩下英嗣, 古川芳孝, 安澤幸隆, 岡正義, 後藤浩二

(5) 研究企画委員会, 分野研究企画部会

菅勇人, 川北千春, 北村充, 後藤浩二, 今里成一郎, 大黒克伸, 今井康貴, 居駒知樹, 大森重明, 川北千春, 池田剛大, 橋本博公, 久米健一, 北村充, 岡田哲男, 山田安平, 中村哲也, 今里成一郎, 山下芳弘, 矢島弘貴, 赤木俊一, 稲岡学, 池田亘, 大黒克伸, 宮島隆, 田中進, 今井康貴, 居駒知樹, 大塚耕司, 松村卓哉, 末吉誠, 厚隆文, 井上拓朗, 木村亨, 木原一, 川北千春, 寺田大介, 平川嘉昭, 菅沼丈夫

(6) 研究委員会

P-53 波力発電における水槽試験での模型縮尺影響研究委員会：
村井基彦, 今井康貴, 居駒知樹, 安澤幸隆, 末吉誠, 胡長洪, 北澤大輔

P-54 救命設備計画指針の改訂研究委員会：

田中進, 山田英城, 石山直, 武田宏之, 稲垣彦彦, 東英一, 大黒克伸, 岸本 研一, 太田進

P-55 海事産業における製品情報の高度利用のための情報共有基盤SPEEDSのプロトタイプの実装：

濱田邦裕, 青山和浩, 稗方和夫, 平田法隆, 木村元, 大和裕幸, 松尾宏平, 竹澤正仁, 佐々木吉通, 富澤茂, 安藤英幸, 尾崎雅, 土井憲治, 岡本直樹, 広崎貴, 益井崇好, 村上貴志, 伊藤健, 平山隆男, 八起雄太郎, 平木常正, 三森裕司, 酒井史彦, 安永亮, 松村卓哉, 国貞泰介, 長野元睦, 吉富祐介, 桑原大明, 関口晋, 藤原浩二, 竹藪直紀, 春田常典, 木村亨, 松尾稔, 中尾幸, 富山悟史, 木根森 弘治

S-15 海底・海底下資源開発ストラテジー研究委員会：

山崎哲生, 今野義浩, 佐藤徹, 居駒知樹, 村井基彦, 増田光弘, 平林紳一郎, 和田良太, 山本マルシオ, 羽上田裕章, 大森英行, 長屋茂樹

(7) 講演会企画委員会

鈴木博善, 川畑友弥, 高木祐介

(8) ふね遺産認定実行委員会

鳥井幸典, 小寺山亘

(9) PRADS 2019 実行委員会

岡田哲男, 日野孝則, 川村恭己, 村井基彦, 平川嘉昭, 戸田保幸, 鈴木克幸, 青山和浩, 飯島一博, 濱田邦裕, 安澤幸隆, 柳原大輔, 後藤浩二, 福井努, 山田安平, 小林顕太郎

(10) JTTC委員会

宇都正太郎, 北澤大輔, 早稲田卓爾, 日野孝則, 箕浦宗彦, 二瓶泰範, 勝井辰博, 久米健一, 松沢孝俊, 岸本雅裕, 岸本隆, 折原秀夫, 犬飼泰彦, 松本大輔

【5】会員名簿の発行

平成29年度版会員名簿を平成30年2月に発行した。

【6】補助金等

当会の諸事業に対する助成として以下の補助金や寄付金を受領した。

(1) 科学研究費補助金

研究成果公開促進費 (国際情報発信強化)

日本学術振興会より 380万円

(2) 国からの補助金

先進安全船舶・造船技術研究開発費補助金

国土交通省より 513万円

(3) 業界補助金

1) 一般向け講演会活動費

日本造船工業会より 150万円

2) 世界船舶海洋工学フォーラム開催支援金

日本海事協会より 400万円

ABS,BV,DNV-GL,LRより 各20万円

(4) 寄付金

当会の諸事業に対する寄付金

日本造船工業会より 183万円

日本印刷より 3万円

【7】関連団体との協力

1) 日本学術会議

日本学術会議が主催する講演会・シンポジウムを3件共催した。

2) 日本工学会

CPD協議会の運用等に関連して日本工学会の事業に協力した。また、事務研究委員会の活動に参画した。

- 3) 日本造船工業会
造船技術者社会人教育の事業、技術士資格に関わる講習会等で日本造船工業会と連携を図った。
- 4) 海事三学会
日本マリンエンジニアリング学会および日本航海学会との連携を目的として会長懇談会等を3回行った。また、合同表彰式、技術者支援事業等で連携を図った。
- 5) 機械系関連学協会
機械系学協会会長懇談会等を通じ、関連行事の連携を図った。

【8】規則

- 定例理事会において下記内規の改定を決議した。
- ・日本船舶海洋工学会社会貢献賞に関する内規
 - ・会員管理に関する内規
 - ・日本船舶海洋工学会論文集及び論文審査委員会に関する内規
 - ・日本船舶海洋工学会論文集掲載論文投稿規定

【9】行政庁への提出

- 平成29年6月30日付で内閣府に事業報告、収支決算書を含む下記を提出した。
 - ・平成28年度（第121期）事業報告等に係わる提出書類
- 平成29年8月105日付で内閣府に下記を提出した。
 - ・役員変更届
- 平成30年3月2日付で内閣府に下記を提出した。
 - ・平成28年度（第121期）事業報告等に係わる提出書類の修正
- 平成30年3月30日付で内閣府に下記を提出した。
 - ・平成30年度（第123期）事業計画
 - ・平成30年度（第123期）収支予算書
 - ・平成30年度資金調達及び設備投資の見込に関する書類

【10】支部会合

1. 東部支部

定時総会

期日：平成29年5月12日
場所：TKP 浜松町カンファレンスセンター会議室
出席者：31名

運営委員会

委員数：鈴木英之支部長ほか13名
第1回（平成29年5月12日）
場所：TKP 浜松町カンファレンスセンター会議室
主要議事：

- 平成28年度 東部支部事業報告および収支決算報告
 - 平成29年度 東部支部事業計画および予算
- 第2回（平成29年7月14日）
場所：日本船舶海洋工学会会議室

主要議事：

- 運営委員の役割分担
 - 平成29年度 ワークショップ（運営委員会提案）の企画
- 第3回（平成28年9月8日）
場所：日本船舶海洋工学会会議室

主要議事：

- 運営委員会および会務委員会の体制見直し
 - ワークショップの実施案
- 第4回（平成29年11月17日）
場所：日本船舶海洋工学会会議室

主要議事：

- 平成29年度中間決算
- 長期休会中の会員の状況確認
- 会費未納者（会員資格喪失対象者）への対応

(4) ワークショップの準備の進捗状況

第5回（平成30年1月19日）
場所：日本船舶海洋工学会会議室
主要議事：

- 平成30年度 東部支部事業計画案・予算案（1次案）
- 平成29年度会員資格喪失対象者
- 平成29年度終身会員の推薦
- ワークショップの開催報告

第6回（平成30年3月9日）
場所：日本船舶海洋工学会会議室
主要議事：

- World NAOE Forum 2018 の開催準備
- 平成29年度東部支部事業報告および決算報告の作成
- 平成30年度東部支部事業計画案・予算案（第2次案）
- 平成30年度東部支部定時総会の開催日程および役割分担
- 運営委員会および会務委員会の体制見直し（案）

東部支部会務委員会

委員数：岡田哲男委員長ほか15名
支部長を補佐し、支部の運営に関する諸事項を実施した。
第1回（平成29年4月18日）
第2回（平成29年7月6日）
第3回（平成29年9月1日）
第4回（平成29年11月10日）
第5回（平成30年1月12日）
第6回（平成30年3月2日）

2. 関西支部

定時総会

期日：平成29年5月12日
場所：三菱重工神戸造船所
出席者：40名（成立要件40/47名商議員）

商議員会

委員数：藤久保支部長ほか54名
期日：平成30年1月19日
場所：神戸クリスタルタワー 出席者：31名
主要議事：

- 平成29年度事業進捗状況
- 平成30年度事業計画案・予算案
- 支部長賞候補推薦のお願い

運営委員会

委員数：藤久保支部長ほか15名
第1回（平成29年4月18日）
場所：中央電気倶楽部 出席者：22名
主要議事：

- 次期運営委員会の体制について
- 平成29年度支部定時総会
- 支部長賞授賞審査委員会

第2回（平成29年5月12日）
場所：三菱重工神戸造船所 出席者：21名
主要議事：

- 平成29/30年度年度役員・委員
- 平成30年春季講演会

第3回（平成29年7月11日）
場所：中央電気倶楽部 出席者：28名
主要議事：

- 支部シンポジウム計画
- 学生研究発表会準備
- 海事産業説明会

第4回（平成29年9月8日）

場所：中央電気倶楽部 出席者：26名

主要議事：

- (1) 新年特別研究会計画
- (2) 平成30年春季講演会

第5回（平成29年11月10日）

場所：中央電気倶楽部 出席者：25名

主要議事：

- (1) 平成29年度中間報告
- (2) 平成30年度事業計画素案・予算素案

第6回（平成29年12月22日）

場所：中央電気倶楽部 出席者：25名

主要議事：

- (1) 平成30年度事業計画案・予算案
- (2) 新年特別講演会

第7回（平成30年1月19日）

場所：神戸クリスタルタワー 出席者：24名

主要議事：

- (1) 平成30年度事業計画案・予算案
- (2) 支部長賞候補推薦のお願い
- (3) 支部シンポジウム
- (4) 商議員制度の存続について

第8回（平成30年3月5日）

場所：I-site なんば 出席者：20名

主要議事：

- (1) 細則・規則の改定
- (2) 平成30年度関西支部定時総会
- (3) 平成30年度若手技術者研修会
- (4) 学生会員募集パンフレット

会務委員会

委員数：勝井幹事ほか17名

支部長を補佐し、支部の運営に関する諸事項を実施した。

第1回（平成29年4月18日）

第2回（平成29年5月12日）

第3回（平成29年7月11日）

第4回（平成29年9月8日）

第5回（平成29年11月10日）

第6回（平成29年12月22日）

第7回（平成30年1月19日）

第8回（平成30年3月5日）

授賞審査委員会

委員数：柏木委員長ほか7名

第1回

期日：平成29年4月18日

3. 西部支部

定時総会

期日：平成29年5月12日

場所：リファレンスはかた近代ビル 1F

議事：

- (1) 支部役員の承認
- (2) 第12期（平成28年度）事業報告および会計報告
- (3) 第13期（平成29年度）事業計画および予算審議
- (4) 西部支部規則一部改定の件

西部支部運営委員会

委員数：土井康明支部長ほか28名

第1回（平成29年5月12日）

場所：リファレンスはかた近代ビル 1F

主要議事：

- (1) 平成29年度予事業計画

第2回（平成29年8月8日）

場所：JR博多シティ 10F

主要議事：

- (1) 平成29年度事業計画の詳細について
- (2) 平成30年度企画について

第3回（平成29年10月30日）

場所：JR博多シティ 9F

主要議事：

- (1) 平成29年度事業報告（含状況報告・費用報告）
- (2) 平成30年度事業計画案

第4回（平成30年1月10日）

場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅前

主要議事：

- (1) 各事業の開催報告
- (2) 平成30年度事業計画案

第5回（平成30年3月7日）

場所：リファレンス 駅東ビル 5F

主要議事：

- (1) 平成29年度事業報告・決算報告
- (2) 平成30年度事業計画・予算案
- (3) 企画担当委員の選出について